

## 第3回 北海道森林管理局国有林材供給調整検討委員会 (概要)

先般開催した、令和7年度第3回北海道森林管理局国有林材供給調整検討委員会の概要について、次のとおりお知らせします。

### 1. 日時

令和7年12月15日(月) 13時30分～15時30分

### 2. 会場

北海道森林管理局 3階 大会議室

### 3. 主な意見等

- 原木の入荷について、エゾ、トドの入荷は少ないものの不足感のない工場が多い。カラマツについては、製材需要の回復により全道的に不足している工場が多い。これから造材時期に入るが、入荷の見通しが不透明で、原木調達に対して不安を懸念する声が出ている。製材の荷動きについて、カラマツ梱包材、パレットの注文が増加しており、生産工場は忙しく、エゾ、トドは全体的に悪い状況が続いているとの声が多い。木材価格について、原木、製材ともほぼ変動なし。来年度に向けた製材の値上げ要請を開始しているところもあると聞いている。道有林の立木販売の入札はすべて終了。97件中90件が落札。落札率は93%。昨年度の落札率が81%だったので12ポイント上がっている。
- 森林組合の生産動向について、間伐、主伐等伐採事業を中心に行なっているが、降雪のため中止を検討。人手不足や夏場の猛暑の影響等で、事業全体が遅れ気味に推移してきたことから、伐採事業に取り掛かる時期も遅れが生じている。運材は比較的順調に推移してきたこともあり、山土場の在庫は少ない。原木在庫は、不足気味で推移している中で、製材についても原木不足から、減産をしている工場も散見されている。材の受入状況については、出材量が多くないということで、製材向けについては、カラマツ、トドマツとも増出荷の要請が非常に多くなっている。製紙向け、バイオマス向けの現状について、全体的に出荷要請が多い中で推移。梱包材パレット、産業資材について、一時期よりは回復した感はあるが、良い状況ではなく、先行き不透明な状況。原木単価、人件費及び諸資材の値上がりにより、製品値上げに動いている状況。カラマツラミナについて、一部増出荷の動きがあり、また、非住宅の物件も計画されているので、今後一定量の需要はあるとの見方をしている。原木の在庫は、3か月前後という中で、推移している。
- 住宅のプレカットについては、非常に厳しい状況が続いているが先行きが見えない状況。住宅の建築確認申請に時間がかかるというのがまだ続いているが、長い場合は4か月ぐらいかかる場合がある。そのため、来春に持ち越している物件が非常に多くなっている。原料材については、広葉樹チップの値上がりにより、なんとか採算が取れるような状況だが、針葉樹チップは、まだ採算が取れていない。これまで操業停止していたチップ工場が再開するという話があり、バイオマス用チップの生産の動きがある。

- 素材生産と造林事業の一貫作業については、地拵えを重機で行うため、素材生産に重機が使用出来ない期間が生じるので、来春以降に地拵え、植付が出来るよう余裕を見てほしいとの意見がある。物価の上昇、燃料の高騰でとても苦労している。
- 流通関係について、トドマツについては、2、3か月程度の工場原料を有している業者が多く、集荷を積極的に進めている工場は少ない状況だが、夏場の虫害の関係で在庫が少ない工場も出ている。製品の受注状況は、一般建築向けについては、輸入製品の今後の入荷状況が不透明で数量が少ない事が予想されるため、引き続きトドマツ製品への注文が入っている。桟木等の土木資材については、価格に大きな変動もなく保合にて推移している。カラマツの梱包パレット工場は、小ロット、多品種、短納期が続いているが、極端な製品受注減少はないが工場原料は流通材が少なく漸減傾向にある。道内の合板工場の原木は、在庫過多により価格を下げる提示が進んでいたが、入荷数量が減少傾向のため集荷の動きとなっている。バイオマス製紙原料は、価格、荷動き共に保合で推移して大きな動きはない。全道の合板原木の移出量は、4月から11月までの累計で、前年度に比べて15%ほど増加。本州のスギ、ヒノキの出材が減り、北海道での集荷参入で出荷が増加している。製品の価格は、保合からやや弱い傾向、住宅着工数が増えないため各工場の対応も慎重。
- 製紙及びバイオマス発電用の原料調達については、現在は相互バランスが取れており、潤沢に出てくるものを使っている状況だが、使用量のバランスが崩れる場合、製紙用として輸入材や古紙などの他原料の配合が考えられる。製紙会社として、機械等の老朽化に伴う設備投資や電力費のかかり増しなど、非常に負担となっているため今以上にお金をかけられない状況。
- トドマツ製材について、市況や製品の荷動きが良くない状況だが、入荷量と同じ生産量を維持している状況。原木については、在庫数量が少ないこともあり、注文に対して長さ径級等欲しいものが揃わないため、長材を切って生産する場合があり、これまでと比べ2割くらい少ない生産状況となっている。製品の荷動きについては、極端に悪くはないが、不安定であり対前年度比がマイナスの状況となっており、なかなか回復が難しい。トドマツの2×4材を生産しているが、使用したことのない業者向けにもPRしながら、営業活動を広げていきたいと考えている。
- カラマツ業界のパレットが減少しているなか、ウッドショック以降小ロット、多品種、短納期に対応しているが、ここ最近国内向けのパレットについては、これまで購入を控えていた業者が買い替え時期になっていることで、若干増えてきているように感じている。ただし、人手不足の問題もあり、過去の能力の仕事ができない状況のため、生産量を大きく伸ばすのは難しい。また、梱包パレット業界では、木製よりプラスチックパレットのシェアが伸びているので、プラスチックパレットに負けない品質の木製パレットを作っていくよう取り組んでいる。
- 発電事業について、FIT制度の売電価格が決まっており、原料コストをいかに抑えるかが収支に大きく影響するため、ランニングコストなど事業の収支を改善することが必要。2×4のトランسفォーム事業において、北米から輸入しているSPF材を使用しているが、今期住宅着工数の減少に伴い生産稼働率が悪いことから、コスト削減のために欧州からの買い入れの動きがある。また、道内、国内からの調達も検討することが必要と考えている。